

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4571700527		
法人名	医療法人 吉誠会		
事業所名	グループホーム 菜の花	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県都城市高城町穂満坊496-3		
自己評価作成日	平成24年6月10日	評価結果市町村受理日	平成24年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571700527&amp;SCD=320&amp;PCD=45">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571700527&amp;SCD=320&amp;PCD=45</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成24年7月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

御利用者が楽しく過ごせるように、一人ひとりに気を配って声かけし、ゆとりあるケアに取り組んでいる。  
季節感を感じてもらえるように、外出訓練を取り入れ、誕生日会等の行事を計画し、利用者や家族に安心して頂けるよう、生活支援をしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

高城町の中心部にあり、隣に母体の病院、老人保健施設、クリニックがある。近くに観音池公園があり、弁当を持って行き、桜、つつじなどを見に行っている。また、あやめ、あじさいなどを見に、季節に応じたドライブが行われている。母体の病院、クリニックがあり、主治医、家族、職員で重度化に向けた話し合いが行われ、看取りについても取り組みやすい環境にある。トイレのドアは重いので、カーテンが取り付けられており、ドアの開閉が困難な利用者も、カーテンで開閉ができるように工夫されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、理念について理解し、理念を基本とした支援に取り組んでいる。また、職員同士で理念に沿った支援の方法や評価を、会議を通じて話し合う。		理念を「なのはな」の名称の語呂合わせで作っている。地域との関係性を重視したものでは、自宅に帰り墓参りがしたいという希望のある利用者には、自宅に連れて行き、墓参を行ったり、友人と会えるようにするなど、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の早朝作業への参加や文化祭への作品出展、見学などを行っている。また、地域へのリサイクル回収に空き缶、ペットボトル、ダンボール等を持って行き、資金源の協力をし、交流に努めている。		地域のいきいきサロンで子供たちと交流したり、高齢者クラブの方たちと七夕祭りをして、おやつと一緒に食べるなどの交流が行われている。そうめん流しも計画されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	話し合いや取り組みは出来ていないが、今年度より高齢者クラブの方を通じ、メンバーの研修や見学等、地域の方へ協力できるよう準備中である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月ごとに行われており、地域代表者の参加もある。ホームの活動や運営についての報告もなされている。		行政、地域の代表者、家族、職員、利用者代表者も参加して、2か月ごとに行われている。しかし、ホームの報告が中心で、ホーム、参加者からの協議事項、意見等が出されて、検討することは少ない状況である。	ホームからの報告のみにとどまらず、委員からの意見等を受け、双方向的な会議となるようにし、そこでの意見をサービスの質の向上に生かす取組を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	諸事情により、推進会議での交流にとどまっているが、今後は取り組んでいきたい。		行政が参加している運営推進会議の交流にとどまっている。	ホームで困っていることや介護保険制度で分からないことなど、電話や訪問を行い、また、たよりを持参して連携をとるなどの取組に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の窓などは、常に開放するように心掛けている。玄関の施錠については、開放に向けて取り組もうと思うが、周囲が国道に隣接しており、交通量が多い為、現時点では行っていない。		玄関の開錠について、前回、次のステップに向けた取組として、検討を行い、取り組んでいたが、利用者の安全を最優先しているため、玄関は常時施錠している。	勉強会を行い、全職員が身体拘束の弊害を認識し、利用者の行動を把握して、一日の中で鍵をしない時間帯を設ける取組を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	御利用者の状況に合わせて、現在のケアが虐待につながっていないかの検討を、会議の中で行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御利用者の方々には、利用される方がいない為、活用例はない。パンフレットなどは用意されている。研修には参加している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退居が必要な御本人や御家族に対して、十分に説明して、同意を得、納得した上で署名、捺印をいただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の受付者は、管理者が担当になっている。御家族からの要望、苦情等は、業務会議で伝達し、全職員が確認できるように運営している。	介護計画書を作成する時に、相談員が家族に聴いているが、意見、要望等ほとんど出ない。意見、要望等を記録にも残していない。	家族が意見等を気軽に出せるように、家族だけで話し合いの場を設定し、出た意見、要望等を記録に残し、業務会議で検討した結果をたよりに載せたり、玄関に掲示して、運営に反映させることを期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヵ月に1度業務会議を開き、意見や提案を聞いている。	職員は、運営に関して、月1回の業務会議で管理者に意見を伝えたり、気づいた時、直接管理者に意見等を言って、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ積極的に派遣している。研修会出席の職員からの報告会を設け、自主研修として随時行い、実践できるものは活かせるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三股・都城地区グループホーム連絡協議会で、2ヶ月に1回、情報交換や勉強会など、ネットワークが出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフは、御本人の要望や不安をふまえた上で、ケアやコミュニケーションを図り、安心した関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の記録書類に目を通し、なるべく御本人の希望に沿うように努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけ、御本人・家族の意向をふまえて、必要な支援なども提案出来るよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜作りや収穫時期、料理やおやつ作りと一緒に作業している			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人の誕生会、施設で行われる行事に招待し、交流を深め、スタッフと話しをしやすい環境づくりを心掛けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に来れるが、馴染みの場所へは御家族にお願いし、支援して頂く。	利用者の希望する美容室に行ったり、自宅に帰り、墓参りやなじみの友人に会ったり、また、来てもらうなどの継続的な支援が行われている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル位置などに気を配っている。洗濯物を皆でたたんでくださっている。レクリエーションなど、御利用者同士が関わられるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院や隣接施設に行かれた時は、面会などに行き、相談や支援に努める。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族とも話し合いを行いながら、できるだけ御本人の意向や希望を把握し、ホーム生活を充実したものにできるように努めている。		意思疎通困難な利用者が多く、家族から情報を得て本人本位に検討し、生活の中で生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや日頃のコミュニケーションなどから、生活歴やなじみの暮らし方を把握し、努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンを把握し、精神的に落ち着いて生活していただけるよう、ケアに努めている。洗濯物たたみ、食事の準備、掃除等のできることは、その日の体調に合わせて取り組んでもらっている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族、スタッフの意見を取り入れながらモニタリングを行い、必要時にはプランの見直しを行い、介護計画を作成している。		家族、職員から意見を聞き、原案を作成して、家族、職員一人ひとりに見てもらい、意見を聞いて作成している。毎月モニタリングを行い、変化がなければ3か月で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践に基づいた個々の記録を行い、申し送りノートで伝達し、スタッフ間で相談している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	老健施設、病院、特老などと連携し、要望に添えるよう、柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御利用者の友人、知人が時々訪問して会話してもらったり、暮らしていた近隣の方の訪問があり、一緒に会話してもらっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時の対応を考え、母体法人系列施設のクリニックをかかりつけ医としている。常に診察して頂いており、適切な医療を受けている。また、クリニックにない診療科については、Dr.より紹介して頂き、受診を行っている。	本人、家族の希望する主治医となっている。母体の病院への通院は、職員が同行している。その他の通院は、家族が同行し、都合がつかない時は職員が対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を導入しており、専門の看護師とスタッフにも看護師を2名配置して、支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御利用者は、併設病院が主治医となっており、緊急な場合の対応、定期的な受診等の医療が受けられる環境にある。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の段階で、看取りの指針についての説明を行っている。かかりつけ医とのムンテラを随時行っている。	看取りの指針は、作られている。重度化に伴い、主治医、家族、職員との話し合いの結果は、日々の記録に残し、申し送りの時に職員に伝え、情報の共有を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	処置の仕方について、看護師より指導を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画を立て、定期的に訓練を行っている。避難路を新たに作り、避難場所を設け、利用者が安全に避難できるようにした。災害についての訓練は、現在検討中である。	火災訓練を年2回行っている。訓練の様子は、写真を添付して日誌にまとめられている。しかし、マニュアルは法人のもので、地域住民の参加はあったが、消防署、地元消防団の参加はなく、自主訓練となっている。	ホームのマニュアルを作成して、消防署、地元消防団との協力体制を築けるような取組を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、御利用者一人ひとりを尊重した対応や御本人に合わせたわかりやすい言葉かけや対応を行っている。		業務会議で、プライバシーについての勉強会を行っている。職員は、トイレ誘導、介助にも目立たない声かけを行い、対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者の目線でゆっくり話したり、御本人の訴えを十分聞くよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事、外出等へ参加したくないときは、無理強いなどしない。御利用者の状態に合わせて、個別にできることを優先させて、御利用者のペースで過ごせるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着は、できるだけ自分で選んでもらうようにしている。美容師に訪問してもらっている。髪型や髪染めは、御本人の意見を聞いてもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、夕食作りを職員が行っており、自家菜園で収穫されたものを使って食べて頂く。職員も御利用者と同じ物を食べている。後片付けの出来る方には、台所まで下膳して頂くようにしている。		利用者の介助、声かけなどが行われている。しかし、検食者は、同じものを食べているが、利用者と一緒に食べておらず、また、利用者と職員の会話も少ない。	ホームは、家庭であることを考え、職員が同じものを一緒に食べると、会話が生まれ、楽しく食べることにつながる。同じ食事を一緒に食べることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御本人の摂取量や嗜好を観察しながら、個人に応じた量を提供し、本人の嚥下状態に合わせて、とろみ剤の調整や味等を工夫し、摂取量できるように支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来る方は確認を行い、重度の方は、職員がお茶を使い、スポンジブラシで行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、日中は排泄パターンや仕草などを察知し、自立に向けた支援を行っている。常時オムツの方で、リハビリパンツに日中だけでも移行できないか等の自立に向けた支援も行っている。	オムツの利用者も、日中はトイレで排せつを行っている。利用者に放尿する方があり、ポータブルトイレを本人が排尿しやすいように高さを工夫した。また、玄関に鳥居を作ったことで放尿が無くなり、トイレで排せつをする工夫を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に水分補給をして頂くように心掛けている。食物繊維の多い食品を使ったおやつ作りも行ったりしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて、シャワー浴や入浴を楽しめるようにしています。入浴時間等も希望にあわせ、対応している。	週3回入浴が行われている。利用者の希望に合わせて、夕方に入浴する利用者もいる。また、入浴できない利用者は、足浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の散歩や体操などを行っている。御利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。眠れない御利用者には、温かい飲み物を飲みながら、しばらく話し相手になるなど、支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容を把握できるように、御利用者一人ひとりの薬剤シートがファイルされており、日にちを入れ、御利用者へ正しく服薬できるように支援している。症状の変化はその都度、看護師へ報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲で洗濯物干しや洗濯物たたみ、食器洗い、日常生活の中に一人ひとりの楽しみごとの役割、出番を作り出す取り組みをしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御利用者の希望があれば、買い物や戸外に職員が付き添い、出かけられるようにしている。	近くの観音池公園に弁当を持って出かけた。り、桜、つつじ、あやめ、あじさいなどが咲く季節に合わせて、積極的に外出を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのスーパーと一緒に買い物に出かけ、御本人よりお金を預かって支払いをする。散髪など、自由に使える金銭は、おこづかい帳につけている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる息子さんや娘さんから定期的に電話があつて会話されたり、御本人から依頼があつた時には、電話の取り次ぎをしている。本人用の携帯電話を持たれ、家族に連絡できるようにしている方もいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光もよく、浴室、トイレなども手すりが設置され、御利用者が安心して生活できるようになっている。各居室に冷暖房が完備してあるため、本人が過ごしやすいように、温度管理等を行いながら、生活できるようにしている。	食堂には、ソファがたくさん置いてあり、自由に過ごせる。トイレは、ドアにカーテンが設置してあり、ドアの開閉ができない利用者は、カーテンが使用できるように工夫されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1号館、2号館の共用空間の造りは異なっており、それぞれのくつろぎスペースとして、心地よいものになっている。ソファなどが置いてあり、御利用者同士腰掛け、会話が弾んでいる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用者占有としての個性的な居室になっている。仏壇やタンス、ソファなど、個人の持ち物が持ち込まれ、面会の方とのひとときが過ごせるようにしたり、時計や季節を知らせるカレンダーが置いてある。	写真、時計、カレンダー、タンスなどが持ち込まれ、居心地よく過ごせる環境が作られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所やトイレの場所が良く分かるように表示していることで、御利用者が自分で場所を見つけていくことができる。			